

# 市民参加で広島湾振興

公益社団法人・日本港湾協会（東京都）が港湾の振興に貢献した団体や個人を顕彰する2018年度の企画賞に、「広島湾さとうみ創生コミュニティ」（中区）が選ばれた。同団体は昨年3月に発足。広島湾を恵み豊かな、にぎわいのある場にしようと、市民が連携してイベントやワークショップを開いており、「市民参加型」の活動を幅広く展開したことが評価された。新潟市で22日表彰式があり、コーディネーターを務める県立広島大学院の百武ひろ子教授らに表彰状が贈られた。

【元田 穂】



表彰状を手に喜ぶ「広島湾さとうみ創生コミュニティ」コーディネーターの百武ひろ子さん。「皆さんを代表して表彰式に参加できたのはとても光栄」と話した。新潟市中央区の朱鷺メッセで、山田明さん撮影

国土交通省中国地方整備局が呼びかけ、賛同する市民団体、個人で構成している。「食と健康」「干潟再生」「エコツアー」「海ゴミ」「情報発信」のテーマごとにプロジェクトを進め、18年度は5回のワークショップを開いたほか、春と秋の2回、食や環境の大切さを考える「ミーツーング&マルシェ」を広島湾などで実施し、多くの市民が集った。「食」の分野では、地元岡山、海の幸をふんだんに使った弁当を開発中。室町時代に名をばせた村上水軍にちなみ、「海賊弁当」として売り出す予定だ。地元漁協とアサリ養殖場の整備に取り組み、メンバーとして参加する県立広島国泰寺高校科学部の生徒は、浜辺に漂着するマイクロプラスチックの採集・調査活動を続け、国内外で発表している。高校生から70代まで、年齢も職業も異なる多様な人々が関わる同コミュニティは26日

に開かれるワークショップで、団体を「広島湾さとうみネットワーク」と改称する。百武さんは「約1年間の試みが評価されて、とてもうれしい。取り組みは今年もさらにステップアップして加速していく。受賞はその大きな弾みとなるし、ますますネットワークの輪を広げていきたい」と受賞の喜びを語った。